

2022年度入学生用 常磐大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神

実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。

教育理念

自立・創造・真摯

学科の教育研究上の目的

(1)社会的な観点から、人間が生きる世界の仕組みや人々が幸せに生きることができる仕組みを学び、変動する現代社会の中で生き抜く力を備え、福祉社会を創造することのできる人材を養成する。
(2)実証性を重視し、常に現実の中から問題を発見し、その解決および改善を考えていくことができる能力を修得させるための教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、知識の修得という側面だけでなく、実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や社会福祉を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指したカリキュラムを体系的に編成します。		1年次	2年次	3年次	4年次	現代社会を構成する様々な人間と社会を幅広く理解した上で社会現象を総合的に認識することができ、人間科学と社会科学の視点を活かしながら、倫理観に基づく健全な批判精神を発揮して同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる人材を養成します。	
(2) 実施方針	(1)学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	学びの技法 I・II 統計の基礎 情報処理 I・II キャリア形成と大学 社会調査入門 英語 I, II, III, IV	英語 V, VI	人間科学概論		学士の学位授与	<p>1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)</p> <p>2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)</p> <p>3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)</p> <p>4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)</p>
	(2)学科に配置される社会学系の講義科目群では、様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけるために、「社会学概論 I・II」「社会学史」「社会人類学」等の授業を通して、幅広い社会学の教育を展開します。	現代社会論 社会学概論 I 家族社会学 地域社会学 産業・労働社会学	社会学概論 II 村落史 社会史 社会人類学 スポーツ人類学 社会学と社会システム	社会学史			
	(3)学科に配置される社会学に関連する分野の講義科目では、現代社会の諸問題、社会現象について関連諸科学の知識を活かし、自分の専門領域に関する自己と社会の関りを明確にし、問題意識を見定めるために、「地理学特論 A・B・C」「社会安全論」「社会保障」「児童・家庭福祉」等の授業を通して、自己の生きる社会について客観的理解を促す教育を行います。	心理学と心理的支援 高齢者福祉 障害者福祉 児童・家庭福祉 ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	都市地理学 交通地理学 民法 刑法 社会安全論 社会保障 貧困に対する支援 保健医療と福祉 権利擁護を支える法制度 ソーシャルワークの理論と方法 ソーシャルワークの理論と方法(専門)	刑事司法と福祉 地理学特論 A 地理学特論 B 地理学特論 C 医学概論 社会福祉の原理と政策 社会福祉調査の基礎 福祉サービスの組織と経営			
	(4)社会学方法論の科目群では、現代社会を理解するための方法論として、現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解く力を身につけるために、「社会調査法 I」「社会調査法演習」等の授業を通して、実証性を重視する基礎教育を段階的に展開します。	社会調査法 I	社会調査法 II 社会調査法演習 社会統計学 社会学基礎演習 I 社会学基礎演習 II				
	(5)学科専門科目に配置する基礎・応用レベルの社会学系講義科目では、現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけるために、「宗教社会学」「国際社会学」「環境社会学」「ジェンダーとセクシュアリティの社会学」等の授業を通して、専門領域に関する問題意識の深化を促す教育を行います。		宗教社会学 犯罪社会学 国際社会学 環境社会学 スポーツ社会学 保健・医療社会学 犯罪社会学 都市社会学 農村社会学	ジェンダーとセクシュアリティの社会学 消費社会学 災害社会学 地域研究特講			
	(6)学科専門科目に配置する応用・発展レベルの演習科目および実習科目では、習得した知識や理論を基に、現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために、「社会学応用演習」「スポーツ社会学演習」「ソーシャルワーク演習」「社会調査実習」や「ソーシャルワーク実習 I・II」等の授業を通して、実践的な教育を行います。		ソーシャルワーク演習	社会学応用演習 スポーツ社会学演習 質的データの扱い方 量的データの扱い方 ソーシャルワーク演習(専門) I ソーシャルワーク実習指導 I ソーシャルワーク実習 I	社会調査実習 ソーシャルワーク演習(専門) II ソーシャルワーク実習指導 II ソーシャルワーク実習 II		
	(7)卒業研究のうち「ゼミナール I・II」では、自分の専門領域について理解を深め、現代社会の課題を多角的に見出し得るために、共同作業を取り入れた教育を行います。また、4年間の学びの集大成である「卒業論文 I・II」では、社会現象、現代社会の課題を多角的に見出すとともに、その課題の改善・解決の方策を考える力を身につけるために、集団討論を積極的に取り入れた教育を行います。			ゼミナール I ゼミナール II	卒業論文 I 卒業論文 II		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
											1.人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身につける、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)	2.人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析による的確な判断を下すことができる。(思考・判断)	3.人間科学に基づく高い倫理観を持ち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身につけている。(態度)	4.各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用・実践能力を修得し、課題解決のための具体的方策を提示し、これを実行できる技能を身につけており、それによって社会に貢献することができる。(知識・理解、思考・判断、技能)
学部共通科目	HMS-101	社会調査入門	講義	2	1		○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するためのひとつの科目として、社会調査入門が位置づけられている(カリキュラム・ポリシー①)。この授業では、人間社会を実証的に研究するための方法としての社会調査法の基礎を学ぶ。前半部分では、社会調査とは何か、その意義、問いをたて調査を実施するまでのプロセスについて学ぶ。後半部分では、社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。	(1)社会調査の基礎用語を理解し、調査の流れを説明できる(知識・理解)。 (2)調査倫理を遵守する態度を有している(態度)。 (3)調査を設計し、実施する際の留意点を説明できる(知識・理解)。	●		◎	
	HMS-201	人間科学概論	講義	2	3		○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するための科目である(カリキュラム・ポリシー①)。「人間」とは何か、という根本問題を探究している諸学問研究の成果を、学部3年次において再度とらえなおし、「人間科学」の形成過程とその学問的位置づけを考察する。また、履修学生相互の学びを通して、「人間観」「人間と科学技術」「人間集団」等をめぐる理解を深める。	(1)「人間性」を主題とする諸学問分野の理解に基づき、人間科学の学問的位置づけを説明できる(知識・理解)。 (2)異なる「人間像」を偏りなく理解し、説明できる(知識・理解)。 (3)人間や人間社会に関する課題について、多面的に考えようとする態度を有している(態度)。	●		◎	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
										1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
学科基本科目	SOC-111	現代社会論	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、その観点から現代社会を理解するために、大学入学後の学科の導入科目として、学科専門科目の基礎的知識の理解を目指す。授業では、現代社会を社会学の視点から理解するための代表的な切り口を紹介する。	(1)現代の社会現象についての日常的な理解。 (2)現代の社会現象への社会学的視点からの理解が可能となる。	●		◎	
	SOC-112	社会学概論Ⅰ	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけるために、大学入学後の学科の導入科目として、社会学領域の概要理解を目指す。授業では、代表的な「社会学」的な視点や考え方を紹介する。	(1)社会を複眼的に見る。 (2)社会の変化を認識する。 (3)社会の多様性を認識する力をつけることが可能となる。	●		◎	
	SOC-113	社会学概論Ⅱ	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけるために、「社会学概論Ⅰ」での学びを発展させる。「社会学概論Ⅱ」においては、社会学の代表的な視点を再確認しながら、現代社会の多様な側面を社会学の観点から理解することを目指す。	(1)社会学の基礎的概念の理解。 (2)社会現象を社会学理論に基づいて理解する力をつけることが可能となる。	●		◎	
	SOC-311	社会学史	講義	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけるために、「社会学史」においては、社会学成立の歴史、草創期の社会学者と理論、近代化と「市民社会」について紹介する。	(1)社会学の成立と発展。 (2)市民社会の成立と発展。 (3)草創期における社会学の概念について説明できる力を高める。	●		◎	
	SOC-121	社会学基礎演習Ⅰ	演習	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、社会科学に関連する文献検索、データ活用の方法について学ぶ。	(1)自ら社会科学に関連する文献を探ることができる。 (2)社会科学に関連する文献の形式を理解し説明することができる。		●	◎	
	SOC-122	社会学基礎演習Ⅱ	演習	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、「社会学基礎演習Ⅰ」で学んだ社会科学文献の探索法・見方・引用法を踏まえて、レジュメの作成方法や活用方法について実践的に学ぶ。	(1)社会科学文献を読み解き、レジュメ形式にまとめられる。 (2)適切な文献の活用ができる。 (3)レジュメをもとに発表することができる。		●	◎	
	SOC-123	社会調査法Ⅰ	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、本講義は社会調査を正しく読み取り活用するために、社会調査の基礎を理解することを目的とする。そのために、社会調査の基礎用語や概念、種類と特性、手法や問題点などについて学習していく。また、社会調査の事例を紹介しながら実際の社会調査についても理解を深める。この科目は、社会調査士資格の「標準カリキュラム【A】社会調査の基本的な事項に関する科目」に対応している。	(1)社会調査の意義と諸類型についての理解。 (2)社会調査リテラシーの基礎的理解。 (3)社会調査の一連のプロセスの把握と各ステップにおける留意事項の理解が可能となる。		●	◎	
	SOC-124	社会調査法Ⅱ	講義	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得する。 社会調査入門(または社会調査法Ⅰ)で学習した社会調査の概要を基盤として、実際に調査で収集したデータの読み取りを行うことのできる基礎的知識を学び、基礎能力の獲得をはかることを目的とする。具体的には、各種統計や調査報告、調査論文を正しく読み取るための「数字」や図表の見方と考え方、調査データの基礎的な分析手法(計算や作表・作図)、質的データの基礎的な見方とまとめ方について学ぶ。これによって、社会調査から得られた資料を正しく読み取り、分析内容をまとめていくための基礎的知識・技能について習得する。 なお、知識・技能の確実な定着をはかるため、統計パッケージを用いて実際にデータの加工、集計、分析を行いながら授業を展開する。 この科目は、社会調査協会の定める社会調査士資格の「標準カリキュラム【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目」に対応している。	(1)既存統計、先行調査研究のデータを正しく捉え、理解することのできる知識・技能の習得 (2)収集したデータを適切に分析することのできる知識・技能の確実な定着 (3)統計パッケージの基礎的な操作法の理解 (4)質的データのとりまとめ方の理解。これらによって、「数字」に強くなり、調査データを確実に整理し、分析し、まとめるための基礎的能力の定着、を目的とする。		●	◎	
	SOC-221	社会調査法演習	演習	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得する。社会調査法Ⅰで学習した社会調査の基礎的知識を基盤として、実際に調査を企画、運営していくための実際の調査手法を学ぶ。具体的には、調査企画、データの収集、データ整理・処理、分析、さらには報告書作成にいたる社会調査の実際の一連の流れを学び、社会調査を実施するための基礎的知識・技能について習得することを目的とする。 なお、実際に社会調査を企画・実施・分析する体験的な学びを通して、より実感的に社会調査の運営が理解できるようにしたい。 この科目は、社会調査士資格の「標準カリキュラム【B】調査設計と実施方法に関する科目」に対応している。	(1)「社会調査入門」および「社会調査法」等で学んだ事柄を再確認し、社会学研究(調査報告書、卒業論文作成等)および社会調査を実施する上での手順を学ぶ (2)実際に簡易な社会調査の実施(量的調査/質的調査)を行う (3)(2)で実施した社会調査の成果を発表(調査報告書の作成およびそのプレゼンテーション)する。		●		◎
	SOC-141	家族社会学	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、家族の諸側面を社会学の視点から学ぶ。具体的には、歴史的にみた家族の変化と現代家族の特徴、恋愛や結婚の変化と現状、子育て、介護にみる親子関係の変化と現状を紹介する。	(1)現代社会における家族現象を新たな目まざしで見つめることができる。 (2)家族社会学の基礎知識の習得が可能となる。	●		◎	
	SOC-142	地域社会学	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、地域社会/コミュニティの諸側面を、社会学の視点から学ぶ。具体的には、日本的コミュニティの成立・発達過程、現代日本におけるコミュニティの機能と役割、コミュニティの多様化、解体と再編を紹介する。	(1)地域社会の変化の理解。 (2)地域社会学の基礎知識の習得が可能となる。	●		◎	
	SOC-143	産業・労働社会学	講義	2	1	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、産業・労働の諸側面を、社会学の視点から学ぶ。具体的には、戦後日本の産業構造・職業構造の変化、労働形態の大きな転換、職業人が直面する諸問題を紹介します。	(1)産業・労働構造の変化を理解。 (2)産業・労働社会学の基礎知識の習得が可能となる。	●		◎	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOC-222	社会統計学	講義	2	2			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、社会調査を設計するためには、収集したデータの縮約や解釈の方法を理解している必要がある。社会統計学では、社会現象をデータとして捉え、表し、分析するために必要な知識の修得を目指す。加えて、表計算や統計アプリケーションを用いて、基本的なデータ分析を行うための知識・技能についても学ぶ。 なおこの講義は「社会調査士」認定資格のための必修科目(D.社会調査に必要な統計学に関する科目)の1つとなっている。	(1)社会調査の設計と社会統計学との関連について理解している (2)データの型に応じた扱い方や表し方を知っている (3)記述統計量の指標の意味と使い方を知っている (4)確率論・推定・検定の考え方がわかる (5)社会現象を理解するための分析方法が、どのように使われるかを知っている (6)表計算や統計アプリケーションを用いて基本的な統計的分析ができる	●			◎	
	SOC-223	質的データの扱い方	演習	2	3			○	質的調査法入門	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得する。社会調査はいわゆるアンケート調査(正しくは調査票調査・質問紙調査・量的調査)だけではない。この講義では、社会調査におけるもう一つの方法である、質的調査についてその基礎的事項を確認し、かつ質的調査を実際に行う上で必要になる技術の習得を目的とするものである。具体的には、さまざまな質的調査について、その概要を各種のモノグラフの講義を通じて理解すると共に、実際に質的データの収集および分析手法を体得する。さらに、受講者各自の関心に基づく調査テーマを設定し、質的調査を実際に実施する。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム【F】質的な分析の方法に関する科目」に対応している。	最終的には学んだ調査技法を卒業論文および各種調査実習・フィールドワークで行う調査研究に際して活用できるようにする基礎的な研究方法を体得することを目標とする。具体的には、 (1)質的調査の特質と調査手法およびその意義の理解 (2)調査課題に対する適切な質的調査方法の設定 (3)(2)の質的調査の具体的な調査企画の立案と実査 (4)(3)の実査に基づく適切なデータの分析・処理 (5)調査成果を発表(調査報告書の作成およびそのプレゼンテーション)を行える能力を涵養することを目標とする。	◎			●
	SOC-224	量的データの扱い方	演習	2	3			○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、「量的データの扱い方」では、社会統計学で修得した基本的な統計学や変数測定に関する知識が必須となる。社会調査データを用いて、統計アプリケーションSPSSによる分析事例をもとに、結果の解釈や分析手法について学ぶことで、社会統計学で修得した知識を実際の場面に応用する力をつけることができる。 本演習は「社会調査士」認定資格のための必修科目(E.量的データ解析の方法に関する科目)の1つとなっている。	(1)多変数の大規模データから分析に必要な変数を特定できる (2)変数を集計・分析するために適したデータに変換できる (3)大規模データをグラフ化して、傾向を読み取ることができる5. (4)変数タイプを理解した上で、変数間の関連分析ができる (5)予測モデルの作成ができる (6)予測モデルの解釈ができる (7)多変量解析の種類と利用場面を理解できる。 (8)分析のための調査課題や仮説の重要性を理解できる。	◎			●	
	SOC-331	ジェンダーとセクシュアリティの社会学	講義	2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、ジェンダー、セクシュアリティ論の基礎的な視点を確認しながら、現代社会に存在する様々のジェンダー不平等な側面について、社会学の観点から把握することを目指す。	(1)ジェンダーとセクシュアリティに関する基礎的な概念の理解。 (2)ジェンダーとセクシュアリティの観点からの社会現象の理解。 (3)現代社会の様々な課題を発見する力の修得が可能となる。	◎		●		
	SOC-352	消費社会学	講義	2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、消費をめぐる通時的変化を社会変動と合わせて把握し、「消費」の社会的理解と消費動向把握のための方法の理解を目的とする。	(1)消費社会の課題に関心を持つ。 (2)消費社会の課題を探求する意欲と能力を高めることができる。		●		◎	
	SOC-255	環境社会学	講義	2	2				現代社会学科カリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、「地域が抱える問題解決のデザイン」を構想」力の修得を目指す。具体的には、学問的経験・社会的経験を踏まえた環境問題の理解とその解決策、外部不経済について学ぶ。	(1)環境問題の現象面と原因の理解。 (2)問題の社会的背景の理解。 (3)解決策の選択肢を提案作成が可能となる。	◎		●		
	SOC-351	災害社会学	講義	2	3				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、災害発生後の被災・復旧・復興、被災地における組織や地域住民の対応と問題点、防災・減災について、災害研究をもとに学ぶ。	(1)災害の社会学および周辺領域の視点からの理解。 (2)防災・減災の制度面からの理解。 (3)災害・防災対応策の提案が可能となる。		●		◎	
	SOC-253	保健・医療社会学	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、現代社会の保健・医療に関する諸現象、病気や病院、保健行動などの仕組みと現代的な意味について、社会学の観点から把握することを目指す。	(1)保健医療社会学の基礎的な概念の理解。 (2)保健医療社会学の観点からの社会現象を理解が可能となる。	◎		●		
	SOC-256	犯罪社会学	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、犯罪学の基礎的な事項について、犯罪対策論(刑事政策)を除いた部分に限定して学ぶ。	(1)犯罪学の基礎的な知識の理解。 (2)犯罪統計に基づく犯罪の現状の考察。 (3)安心・安全な社会の実現に向けた主体的な取り組みが可能となる。	◎		●		
	SOC-251	都市社会学	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、一般的な地域社会としての都市の特性を社会学の視点から理解するほか、都市社会の時事的な問題について学ぶ。	(1)都市社会学の学説史に関する基礎的な知識。 (2)都市メカニズム。 (3)都市社会をめぐる新たな動向とその背景を理解することが可能となる。	◎		●		
	SOC-252	農村社会学	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、日本の農村・村落の成り立ちや仕組み、変化を捉えた上で、現代農村が抱える課題について理解を深める。	(1)農村・村落社会学の学説史。 (2)村落社会・村落生活の現実。 (3)日本における農村社会の変動過程と農村問題。 (4)農村の持続と展開について、理解することが可能となる。	◎		●		
	SOC-241	国際社会学	講義	2	2				現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ、専門領域に関する問題意識を深化させるため、国際的な現象を社会学の方法を用いて分析し、人の移動、対立、統合、統治の現状と課題について考えることで、現代社会の諸問題への関心を深める。	(1)国際社会学の基礎的な概念の理解。 (2)国際人口移動に関連する国内外の現象を社会学の理論と関連付けて説明できることが可能となる。	◎		●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	夏	秋	冬	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOC-254	宗教社会学	講義	2	2							現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への問題関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ」、専門領域に関する問題意識を深化させるため、社会学史の文脈に沿った宗教研究の整理、信仰世界の多様性の理解、現代社会における日本人と宗教について理解を深める。	(1)信仰世界の多様性の理解。 (2)宗教と現代社会の関わりについての理解が可能となる。			●	◎
	SOC-247	スポーツ社会学	講義	2	2							現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への問題関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ」、専門領域に関する問題意識を深化させるため、スポーツとは何かを社会学の立場から捉え、スポーツの社会的役割について学ぶ。	(1)スポーツの社会的意味づけの理解。 (2)スポーツの社会的役割の理解。 (3)現代社会におけるスポーツをめぐる諸問題・諸課題の理解が可能となる。			●	◎
	SOC-272	社会人類学	講義	2	2					○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけるために」、文化・社会人類学の歩みの概観、文化と社会の多様性について、事例研究を基に理解を深める。	(1)日本および世界の文化・社会の多様性の理解。 (2)自身の価値の形成過程の理解を可能とする。	●		◎	
	SOC-271	スポーツ人類学	講義	2	2					○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、社会学の周辺領域である文化・社会人類学の下位分野であるスポーツ人類学の考え方の基本を学び、文化・社会の一分野としてのスポーツについて、「知る」ことを目的とする。スポーツをめぐる文化・社会人類学の歩みを概観し、事例研究を踏まえ、スポーツと文化と社会との関係について学ぶ。	(1)スポーツを通して、日本および世界の文化・社会の多様性理解。 (2)自身の価値の形成過程の理解を可能とする。	●		◎	
	SOC-353	地域研究特講	講義	2	3							現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題への問題関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけ」、専門領域に関する問題意識を深化させるため、本学が立地する茨城県を事例として取り上げ、歴史的な変遷を、とくに「開発」を軸として捉え、国家、および国際社会との関係の中で、茨城県の位置づけを試みる。さらに、当該地域社会の課題と課題解決の可能性を探る。	(1)地域社会に対する洞察力。 (2)事例研究の意義についての理解。 (3)徹視的/巨視的の両視点から客観的に当該地域を理解し、位置づけるための知識や方法の修得。 (4)地域社会の分析枠組みの理解が可能となる。			●	◎
	SOC-273	都市地理学	講義	2	2					○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、そもそも都市とは何かを考え、都市形成の過程、都市の機能や分布の理論や法則、地域性などを概観した上で、都市における生活の諸相や都市をめぐる諸問題について具体例を挙げながら検討していく。	(1)都市とは何かを多面的に理解し、説明できる。 (2)地理学的視点から都市の分布や構造とその特徴を説明できる。 (3)現在の都市で発生している諸課題を現代社会の諸問題と関連させて捉え、その解決策について考察できるようにする。	●			◎
	SOC-274	交通地理学	講義	2	2					○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、過度に自動車に頼る状態から公共交通機関や自転車「かしく」使う方向へ転換しようとするモビリティ・マネジメントを中心とする現代の地域交通政策を事例として、交通地理学的手法による交通の分析・判断・洞察の技能を習得していく。また交通に関する「地理的な見方や考え方を身につける。	(1)モビリティ・マネジメントを中心とする現代の地域交通政策を理解し実践することを通して、交通地理学的手法による交通の分析・判断・洞察の技能を習得することができる。 (2)また交通に関する「地理的な見方や考え方を身につけることができる。	●			◎
	SOC-371	地理学特論A	講義	2	3							現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について発展的な知識を習得し、自分の専門領域に関する問題意識を深め」るため、産業・労働と家・家族の在り方を切り口に、地域についての理解を深める。それと同時に、「現代社会を理解するための方法論」の一つである比較研究という手法について確認をする。	(1)地域社会の多様性の理解。 (2)比較を通して社会現象を捉える手法の修得。 (3)相対的なものの見方の修得が可能となる。	●		◎	
	SOC-372	地理学特論B	講義	2	3						国内外のエスニック・コミュニティを考える	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について発展的な知識を習得し、自分の専門領域に関する問題意識を深め」るため、地域社会におけるエスニック・コミュニティの国内比較、国際比較を通して、人々の母国や定住先との間にどのような価値観に基づく規範があり、ネットワークが存在するのか、また、それらが地域社会にどのような影響を及ぼすのかという点について事例をもとに学ぶ。	(1)国内外のエスニック・コミュニティについて理解し、説明できる。 (2)地域社会への影響について考察し、問題解決策を考案することができる。	●		◎	
	SOC-373	地理学特論C	講義	2	3							現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について発展的な知識を習得し、自分の専門領域に関する問題意識を深め」るため、地図学初學者のための入門として、地図学の基礎的な知識を習得するとともに、地図の作成・活用・分析に係る技能を習得する。	(1)これまでに学習してきた社会に関する知識をより発展させ、社会について洞察する能力を身に付ける。 (2)地図と地図学の意義について理解できるようになる。 (3)地図学の基礎となる知識・技能の前提としての、読図・作図の能力、統計資料の収集・表現の能力を身につけることができる。	●		◎	
	SOC-275	社会史	講義	2	2					○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけるために」、19世紀末以降の「社会史」の成立と展開を考察し、その展開過程において、他学問分野の成果を吸収したことが、社会史の発展に重要であったことを明らかにする。社会史は、学際的であり、テーマは幅広い。本講義ではそれらの成果をすべて取り上げることはできないが、代表的特徴的な研究を選択して詳解する。	(1)社会史の研究成果の理解。 (2)社会の歴史的・文化的理解。 (3)学際的研究の意義の理解が可能となる。	●			◎
	SOC-276	村落史	講義	2	2					○	前近代の日本の村社会	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけるために」、現代日本社会の基層をなす村社会の構造と特質、その展開を考案。日本の前近代、とくに村社会が成熟した戦国時代および江戸時代を対象に、村の景観と構成要素、村と領主支配(政治)、村内外の社会関係・社会組織、村人の日常の暮らしなどについて理解を深める。村社会の連続と変化・断絶を意識しながら、授業を進める。	(1)前近代の村社会の特質と展開を、現代日本の社会的・文化的基層として理解できるようになる。 (2)村をめぐる人と人の関係(村内外の住民関係、領主と領民の関係など)、人と自然の関係の歴史を踏まえ、将来のよりよい社会像を構想できるようになる。 (3)先人である百姓の生業と暮らしを豊かに復元・イメージし、現代・将来を生きる自分たちのあり方を見つめ直す鑑とすることができる。	●			◎
	SOC-261	社会安全論	講義	2	2							現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、社会安全の担い手として、市民、警察、検察、裁判所、刑務所、少年院、保護観察所を取上げ、それぞれが社会安全に果たす役割について概説するものである。	(1)社会安全の担い手である個人・団体・機関等について、それぞれが果たす役割及び重要性について理解する。 (2)これについて説明できるようになる。	●			◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	夏	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
													1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点から読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
学科専攻科目 学科専門科目	SOC-262	民法	講義	2	2				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、私たちの生活を規律する民法について学修する。民法は1050条という膨大な数の条文から成る法律である。民法は①総則、②物権、③債権、④親族、⑤相続の5編で構成されるが、本講義では、①総則と②物権を取り上げ解説する。まずは教材を通じて基本を理解した上で、各種資格試験問題から厳選した問題演習を通じて実践力を身に付ける。	(1) 民法総則および物権法に関する基本的な知識の習得が可能となる。	●				
	SOC-263	刑事法	講義	2	2				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定め」るため、刑法の中でも刑法各論と呼ばれる領域について講義する。刑法各論という学問領域は、刑法の規定の中でも個別具体的な犯罪の成立要件に関する事項について定めたものを対象とし、具体的には刑法第77条以下が対象となる。刑法各論は刑法総論に比べると具体的な議論が多いが、その一方で扱う条文数は格段に増加する。刑法各論を半年で学ぶことになるので、基本的な事項に限定して概説する。	(1) 刑法各論に関する基本的事項について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。 (2) マスコミ等で報道されている事件等について刑法の観点から考察できるようになる。 (3) 刑法とは犯罪者を処罰するためだけではなく、人権保障のための法律でもあることを理解するなど、多面的総合的に判断することができるようになる。	●	◎			
	SOC-322	社会学応用演習	演習	4	3				○	カリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。具体的には、共同作業を重視した指導方法により、テーマに基づきデータ・資料収集、分析、報告について学修する。	(1) 社会的存在としての人間の理解。 (2) 他者との協働による問題解決力。 (3) 学修成果の発表技能の修得が可能となる。		◎		●	
	SOC-321	スポーツ社会学演習	演習	4	3				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現況と課題」「運動部活動の変容と課題」等のテーマに基づき、社会調査の手法を用いながら学修する。	(1) 社会的存在としての人間の理解。 (2) 他者との協働による問題解決力。 (3) スポーツ社会学の学修成果に基づく、発表技能の修得が可能となる。		◎		●	
	SOC-323	社会調査実習	実習	6	4				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。具体的には、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を企画し、実施し、調査報告書を作成する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。なお、この科目は社会調査士資格の「標準カリキュラム[G]社会調査を実際に経験し学習する科目」に対応している。	(1) 調査を自分で企画・実施できる。 (2) 学外の人の円滑なコミュニケーションをとることができる。 (3) 自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめる能力の修得が可能となる。		◎		●	
	SOW-112	医学概論	講義	2	3				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし」、人のライフステージにおける心身の変化と健康課題、健康・疾病の捉え方、人の身体構造と心身機能、疾病と障害の成り立ち及び回復過程、公衆衛生の観点からの人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策について学修を深める。	(1) 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について説明できる。 (2) 人の身体構造と心身機能、健康・疾病の捉え方、疾病と障害の成り立ち及び回復過程について説明できる。 (3) 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策について説明できる。	●			◎	
	SOW-113	心理学と心理的支援	講義	2	1				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし」、人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、日常生活と心の健康との関係、心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援、について学修を深める。	(1) 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を説明できる。 (2) 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、日常生活と心の健康との関係について説明できる。 (3) 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について説明できる。	●			◎	
	SOW-111	社会学と社会システム	講義	2	2				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、その観点から現代社会を理解するために、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会の関係、社会問題とその背景について社会的観点から学修を深めるものである。	(1) 現代社会の特性を説明できる。 (2) 生活の多様性について説明できる。 (3) 人と社会の関係について説明できる。 (4) 社会問題とその背景について説明できる。	●			◎	
	SOW-114	社会福祉の原理と政策	講義	4	3				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、社会福祉の原理をめぐり思想・哲学と理論、社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえた欧米との比較による日本の社会福祉の特性、社会問題と社会福祉の関係の視点からの現代の社会問題について理解し学修を深める。またさらに社会福祉の概念や理念、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程の関係性、福祉政策の動向と課題を踏まえた上での関連施策や包括的支援、福祉サービスの供給と利用の過程について理解を深める。	(1) 社会福祉の原理をめぐり思想・哲学と理論を説明できる。 (2) 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を説明できる。 (3) 社会問題と社会福祉の関係の視点から、現代の社会問題及び、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程との関係について説明できる。	●		○	◎	
	SOW-115	社会福祉調査の基礎	講義	2	3				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会学の基本となる「相対的なものの見方」を身につけ、その観点から現代社会を理解するために、社会福祉調査の意義と目的への理解、社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係、社会福祉調査における倫理や個人情報保護、量的調査の方法及び調査の結果の解釈、質的調査の方法及び調査の結果の解釈、ソーシャルワーク実践の評価の意義や方法について、学修を深める。	(1) 社会福祉調査の意義と目的、社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係、ソーシャルワークにおける評価の意義について説明できる。 (2) 社会福祉調査における倫理や個人情報保護について説明できる。 (3) 量的調査、質的調査の方法及び調査の結果について適切に説明できる。	●			◎	
	SOW-131	ソーシャルワークの基盤と専門職	講義	2	1				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、ソーシャルワーク(相談援助)に関する最も基礎的な科目として、ソーシャルワーカーの職務、法律上の規定、ソーシャルワーク実践にかかわる理念や視点について学ぶ。	(1) ソーシャルワーカーの役割について説明できる。 (2) ソーシャルワークの実践を支える理念について説明できる。 (3) ソーシャルワークの形成の歴史の概要について説明できる。 (4) ソーシャルワークの実践を支える倫理、倫理的ジレンマについて説明できる。	●			◎	
	SOW-132	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	講義	2	1				○	現代社会学科のカリキュラム・ポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について、学修を深める。	(1) 相談援助専門職の概念について説明できる。 (2) 地域を基盤としたソーシャルワークとはどのようなものか、またその必要性について説明できる。 (3) 総合的かつ包括的な相談援助において求められる機能について説明できる。	●			◎	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解が得られ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOW-133	ソーシャルワークの理論と方法	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、相談援助実践の過程を体系的かつ実践的に学ぶ。具体的には、相談援助のインテーク、アセスメント、プランニングとそれに基づく実施、評価、結核といった展開を学ぶ。	(1) 対人援助の開始から終結までのプロセスを説明できる。(2) 対人援助実践におけるアセスメントの重要性を説明できる。(3) 対人援助にかかわる記録の重要性と記録の仕方、実践の蓄積の意義を説明することができる。	●			◎
	SOW-134	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、対人援助の主要な理論を取り上げながら、援助者(利用者)のそれぞれの状況と、両者を取り巻く環境の捉え方を学ぶ。そして、援助者が持つべき専門性と、その専門性を発揮して問題解決を図る援助実践のための基礎的知識を学ぶ。	(1) 実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。(2) 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について説明できる。(3) 地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて説明できる。(4) 事例分析の意義や方法を説明できる。	●			◎
	SOW-128	地域福祉と包括的支援体制 I	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、ソーシャルワークを行う上で基礎的知識である地域福祉の基本的な考え方・展開・動向、地域福祉における主体・対象及び住民の主体形成の概念、地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開について学修を深める。	(1) 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。(2) 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明できる。(3) 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割、地域福祉計画等の福祉計画の意義・目的及び展開について説明できるようになる。	●		◎	
	SOW-129	地域福祉と包括的支援体制 II	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、地域福祉における主体・対象及び住民の主体形成の概念、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際、地域生活課題の変化と現状を踏まえた包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について学修を深める。	(1) 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明できる。(2) 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士等の役割を説明できるようになる。	●		◎	
	SOW-225	福祉サービスの組織と経営	講義	2	3	○				福祉サービスの組織と経営	現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、社会福祉サービスの主な提供組織の機能と役割、組織管理の理論と実際について総合的に学ぶ。授業を通して、社会福祉専門職として必要とされる経営管理の知識とスキルを身につける。	(1) 福祉サービスの提供組織や団体にかかる制度や内容が説明できる。(2) 福祉サービスの組織と人材育成について説明できる。(3) 福祉サービスの財務会計の基本と情報管理について説明できる。	●			◎
	SOW-122	社会保障	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、社会保障の理論や仕組み、実際の社会保障(年金保険、医療保険、労働保険、介護保険、社会手当など)の体系について理解する。また社会保障の歴史的展開を踏まえ、そして諸外国における社会保障との比較をしながら講義する。	(1) 社会保障の理論、方法について理解・分析し、説明できる。(2) 実際の社会保障の体系、仕組みについて理解・分析し、説明できる。(3) 社会保障の歴史的展開、そしてそれらに基づき今後の社会福祉のあり方について、説明できる。	●		◎	
	SOW-123	高齢者福祉	講義	2	1	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、少子高齢化や高齢期の課題、高齢者福祉の歴史的展開、介護保険制度を中心とした高齢者福祉制度、高齢者福祉の関連法令等について、また要介護高齢者の生活を支援するためのフォーマル、インフォーマルな社会資源を活用した方法について講義を行う。	(1) 少子高齢化の現状と要因について、また高齢期における高齢者と家族の課題について説明できる。(2) 高齢者福祉の歴史的展開について説明できる。(3) 介護保険制度や高齢者福祉の関連法令について説明できる。(4) 高齢者や家族の状況について適切に理解し、支援の計画を考えることができる。	●			◎
	SOW-124	障害者福祉	講義	2	1	○				障害者福祉を概観する	現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、ソーシャルワークを行う上で基礎的知識である障害の概念と特性、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史と障害者観の変遷及び制度の発展過程、障害者に対する法制度と支援の仕組み、高齢期における生活課題を踏まえた社会福祉士としての適切な支援のあり方について、学修を深めるものである。	(1) 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について説明できる。(2) 障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について説明できる。(3) 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて説明できる。(4) 障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方について説明できる。	●			◎
	SOW-125	児童・家庭福祉	講義	2	1	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、児童やその養育を担う家庭が抱えるさまざまな福祉問題の現状と、その解決を図るための福祉施策について、その根拠となる「児童福祉法」を紐解きながら、その現状と課題について学修する。また、本科目は「社会福祉士」の資格要件でもあることから、社会福祉士として身につけておかなければならない児童家庭福祉に関する知識や技能も併せて学修する。	(1) 児童家庭福祉の分野(母子保健、障害児福祉、児童健全育成、保育、児童自立支援対策、児童虐待対策、ひとり親家庭福祉など)を説明できる。(2) 児童家庭福祉の分野での課題と施策の現状を説明できる。(3) 施策の根拠となる児童福祉法について説明できる。4) 政策提言などを検討できる。	●			◎
	SOW-126	貧困に対する支援	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、公的扶助の専門的な知識、技術、価値観を定着させることを目指す。貧困・低所得にある人々への理解と、その支援のための生活保護制度や生活困窮者自立支援諸制度の理解を深め、低所得者への個別支援の方法を学ぶ。	(1) 貧困の概念や原因、貧困・低所得層の人々が直面している課題を説明できる。(2) 生活保護など公的扶助制度の仕組みや機能を説明できる。(3) 制度や社会資源を活用し、他職種連携・ネットワークにより所得者の課題解決を支援する技術について説明できる。	●			◎
	SOW-127	保健医療と福祉	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、講義を通して、保健医療の動向、保健医療に係る政策・制度・サービス、健康医療領域における社会福祉士の役割と連携や協働、保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方、について学修を深める。	(1) 今日の社会保障制度や保健医療サービスの変遷や概要について説明できる。(2) 保健医療サービスにおける専門職の機能・役割を説明できる。(3) 保健医療サービス関係者や地域の社会資源との連携を説明できる。(4) 保健医療サービスにおける社会福祉専門職の専門性について考えを述べる事ができる。	●		◎	
	SOW-224	権利擁護を支える法制度	講義	2	2	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、ソーシャルワークを行う上で基礎的知識となる、法に共通する基本的な知識、権利擁護を支える憲法・民法・行政法の基礎、権利擁護の意義と支える仕組み、権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際、権利擁護活動を実践する過程で直面する問題の法的観点からの理解、ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度、について学修を深める。	(1) 法に共通する基礎的知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を説明できる。(2) 権利擁護の意義と支える仕組み、権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について説明できる。(3) ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について説明できる。(4) 権利擁護活動を実践する過程で直面する問題を、法的観点から説明できる。	●		◎	
	SOW-223	刑事司法と福祉	講義	2	3	○					現代社会学科のカリキュラムポリシー「関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについて認識を深めるために」、刑事司法の近年の動向と制度の仕組み、刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割、刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割、について学修を深める。	(1) 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。(2) 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。(3) 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明できるようになる。	●			◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
										1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOW-241	ソーシャルワーク演習	演習	2	2	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、社会福祉士が専門的業務を展開する上で必要とされる基本的な、ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力術や、その活用のあり方を扱う。	(1)ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的な理解。 (2)ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力の涵養・向上。 (3)ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術の実践的な理解、が可能となる。	◎			●
	SOW-341	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	演習	4	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていけるよう実践的に学ぶ。すなわち、社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範の理解と倫理的な判断能力、分野横断的な総合的かつ包括的な支援の理解、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組み、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開等を学ぶ。また、実習後には、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう指導を行う。	(1)社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し倫理的な判断が行える。 (2)支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程について実践の観点から説明できる。 (3)実習を通じて体験した事例の検討を実際に行うことによる、ソーシャルワークの方法について具体的な説明できる。	◎			●
	SOW-342	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	演習	4	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていけるよう実践的に学んでいく。すなわち、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組み、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチ、スーパービジョン体験的等を学ぶ。実習後には、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう指導を行う。	(1)地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みの実践的に理解し説明できる。 (2)マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについての実践的な理解(実習を通じて体験した事例での理解も含む)し説明できる。	◎			●
	SOW-343	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、そのため、ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前準備として、実際に実習を行う実習分野・施設・機関の理解、実習先で関わる他の職種との専門性や業務、実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術に関する理解、実習計画への記録内容及び記録方法に関する理解、実習計画の作成、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務や価値規範の理解を扱う。実習後は、実習体験の報告、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、実習後の自己評価・他者評価、全体総括会、実習総括レポートの作成等を通じ、体験の振り返りと既存知識との統合を行う。	(1)ソーシャルワーク実習の意義について説明できる。 (2)社会福祉士として求められる役割や、価値と倫理に基づく専門職としての基礎的態度を示すことができる。 (3)ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得している。	◎			●
	SOW-344	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習	1	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前準備として、実際に実習を行う実習分野・施設・機関の理解、実習先で関わる他の職種の専門性や業務、実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術に関する理解、実習計画への記録内容及び記録方法に関する理解、実習計画の作成、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務や価値規範の理解を扱う。また実習後では、実習体験の報告、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、実習後の自己評価・他者評価、全体総括会、実習総括レポートの作成等を通じ、体験の振り返りと既存知識との統合を行う。	(1)ソーシャルワーク実習の意義の理解。 (2)社会福祉士として求められる役割の理解と、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢の涵養。 (3)ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的な理解と、ソーシャルワーク機能を発揮するための能力の習得が可能となる。	◎			●
	SOW-345	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	4	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅰでは、夏季休暇期間中に、様々な分野や種別に配属され、180時間以上の実習に取り組む。「職場体験」や「特定施設での援助体験」をするだけでなく、個別の場での体験を通じながらも、援助実践現場に出ても対応できる通底的・普遍的なソーシャルワーク技術を学び体得する。そして、その実習の中で、職場の理解、職種の理解、ソーシャルワークの理解を順次図っていく。社会福祉施設・機関で180時間以上の現場実習を行い、相談援助実習担当教員が、週1回、実習先への巡回指導または帰校指導を行う。	(1)ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的実践を行うことができる。 (2)支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)についての把握できる。 (3)生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行える。 (4)施設・機関等が地域社会の中で果たす役割について実践に基づき説明できる。	◎		○	●
	SOW-346	ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	2	4	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ソーシャルワーク実習Ⅱの体験を踏まえ、ソーシャルワーク実習Ⅱでは、様々な分野や種別に配属され、60時間以上の実習に取り組む。個別の場での体験を通じながらも、通底的・普遍的なソーシャルワーク技術についての学びを深め体得する。社会福祉施設・機関で60時間以上の現場実習を行い、相談援助実習担当教員が週1回、実習先への巡回指導を行う。	(1)ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力の涵養。 (2)生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源の把握。 (3)施設・機関等が地域社会の中で果たす役割の実践的な理解。 (4)総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的な内容の実践的な理解が可能となる。	◎		○	●
	OPT-111	法律学(国際法を含む)	講義	2	1		日本法の基礎知識を学ぶ	本講義は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につける」ことを目標とする。法は現代社会が円滑に機能するために不可欠な装置である。社会のすべての成員は日常生活において様々なルールに従い、あるいはこれを用いているが、これらのルールの中で、法は最も重要なものである。法の基盤と体系を学ぶことは現代社会を理解するための大切な手掛かりとなる。このような観点から、本講義では、法の定義、歴史、機能を学ぶほか、法の各分野(公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法)を概説する。国家公務員、国際公務員としての実務経験を有する教員が、具体的な事象への法適用を踏まえて講義する。	(1)法の概要を理解し、法とは何かについて、また、日本の法体系と法の適用の仕組みについて説明できる。社会の様々な事象について、法的観点から分析できる。政治、行政分野でのより発展的な学習の基盤を整える。	●			

2022年度 常磐大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				
												1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)	
任意科目	OPT-112	政治学(国際政治を含む)	講義	2	1					本講義は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につける」ことを目標とする。日本語だけでなく英語を学んでいくこと、国際理解は進まない。「国際政治」と日本語で言う怪しむ人は少ないが、実はこれは英語の「International Politics」の誤訳が定着してしまったものである。英語(および欧米文化圏)の概念では「Politics」とは「政争」を意味する。つまり「政治学(国際政治を含む)」とは、世界規模で遂行される政争術である。因みに「Political Science」を正確に訳せば「政争術」であり、日本語の政治学に相当する英語は「Government Studies」である。本授業は国際関係における政争術という観点から講ずる。論理的な枠組みを踏まえつつ、随時事例を交えて、解説する。これらを通じて、教養、自己教育力、思考力、判断力を養う。これは、洋の古今東西を問わない普遍的な「人間とは何か」という根本的な問題にアプローチする方策の一つでもある。	(1)新聞やテレビ等のニュースを見て、その内容を他人に語る事が当然のようになる。 (2)授業の後半では、毎週の新聞の報道記事から「5W1H」を読みとる訓練をし、その能力を習慣とすることができる。 (3)社会人として経験を積み、部下を持ち、他社の中堅以上の幹部や外国人社会人と付き合うようになった時に必要とされる、国際情勢を捉えるための基礎的な視座・分析枠組みと専門知識を身につけることができる。 (4)中学・高校の教員になった時に必要とされる、世界史や地理などの国際情勢に関わる教科の授業準備をするための、解釈や分析の枠組みと専門知識を身につけることができる。 (5)授業終了後にも、日々の生活そのものが自学自習の場となるような習慣ができる。	●		◎		
	OPT-113	経済学(国際経済を含む)	講義	2	1					本講義は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につける」ことを目標とする。経済学は、私たちが暮らす社会の動きや仕組みを明らかにしようとする学問です。例えば、「先月の全国消費者物価上昇率は0.5%でした。」というようなニュースが流れます。消費者物価とは何でしょうか。消費者物価が上がると私たちの生活にどのような影響を与え、私たちはどのような行動をとるのでしょうか。こういったことを経済学というツールを利用してより深く考察することができるようになります。本講義では、実社会を見る視点・知識を養うために知っておくべき基礎的な知識と手法(ミクロ経済学とマクロ経済学)を学びます。	(1)最新の政府統計等のデータを見て、現在の社会情勢や変化について捉え、経済学の観点から現実の社会的現象を論じることができるようになること。 (2)経済理論と政府統計等のデータを応用し、政策の立案・提言ができるようになること。	●		◎		
	OPT-114	哲学概論	講義	2	1					ヨーロッパの哲学と中国の思想 本講義は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につける」ことを目標とする。カリキュラム・ポリシーに依り、ヨーロッパと東洋(中国)の古今の哲学・思想について概説する。自分たちが常識だと思っていることを疑ってみることで、現在の我々のものの見方、考え方の根底に哲学があることに気づいてもらうことから始める。そして、現代の考え方が、どのように発展・展開してきたのか、ヨーロッパの哲学と中国を中心とした東洋思想を軸として講義をし、哲学についての知識を深め、現代の哲学について考察していく。	(1)東洋と西洋の哲学・思想の概要を説明できる。 (2)学問および社会の根底には哲学があることを認識できる。	●		◎		
	OPT-115	倫理学概論	講義	2	1					教職課程 本講義は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「様々な社会について歴史的、文化的な理解ができ、異文化や他者への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につける」ことを目標とする。現在、国際化が進んでいるが、自分や自分をとりまく日本人の行動様式や倫理観を知ることも忘れてはならない。それらは、日本の歴史の中で、日本古来の思想、仏教思想、儒教思想、アメリカの民主主義など、多くの思想の影響を受けて形成されてきたと考えられる。本講義では、まずは日本人の倫理観を形成してきた儒教思想および仏教思想を検討し、さらにキリスト教を基本とする西洋の倫理観を考察することによって、現代日本の倫理観についての考えを深め、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けることにする。	(1)現代日本人の倫理観を形成している様々な倫理思想を知る。 (2)自分や他人の行動を客観的に考えることができるようになる。	●		◎		
卒業研究	THS-201	ゼミナール I	演習	2	3			○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「自分の専門領域について理解を深め、現代社会の課題を多角的に見出す」ために、1・2年次の学修をさらに進展させ、共同作業を取り入れた指導方法を通して、学科の学びの集大成としての「卒業論文」に繋げる。	(1)ゼミナール I で取り扱う現代社会に関連するテーマについて理解できる。 (2)研究するうえでの倫理的態度や基礎的技能を身に付けている。 (3)必要な資料を収集し、発表のために活用できる。			◎	●	
	THS-202	ゼミナール II	演習	2	3			○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「自分の専門領域について理解を深め、現代社会の課題を多角的に見出す」ために、ゼミナール I での学修をさらに進展させ、共同作業を取り入れた指導方法を通して、「卒業論文」作成のための基礎的知識・技能の修得を目指す。	(1)ゼミナール II で取り扱う現代社会に関連するテーマについて理解できる。 (2)研究を進めるための基礎的知識・技能を身に付けている。 (3)必要な資料を収集し、発表のために活用できる。			◎	●	
	THS-301	卒業論文 I	演習	2	4			○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会現象や現代社会の課題を多角的に見出すとともに、その課題の改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、ゼミナール II での学修をさらに進展させ、集団討論を取り入れた指導方法を通して、学科の学びの集大成としての「卒業論文」の作成に向けた学修を行う。	(1)卒業論文を仕上げるための計画を立てることができる。 (2)卒業論文を作成するために必要な知識・技能を身に付けている。 (3)文献調査を進めることができる。 (4)卒業論文の中間報告のための資料を作成できる。			◎	○	●
	THS-302	卒業論文 II	演習	4	4			○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会現象や現代社会の課題を多角的に見出すとともに、その課題の改善・解決の方策を考える力を身につけるために」、卒業論文 I での学修をさらに進展させ、集団討論を取り入れた指導方法を通して、学科の学びの集大成としての「卒業論文」を基準に沿って仕上げる。	(1)卒業論文を計画に沿って仕上げることができる。 (2)基準に見合う卒業論文を作成できる。 (3)卒業論文を作成するための倫理的態度や技能を身に付けている。			◎	○	●

2021年度以前入学生カリキュラム 常磐大学 人間科学部 現代社会学科 履修系統図

	SOC-341	社会階層論	講義	2	3			○		カリキュラム・ポリシーに基づき、「現代社会に関する専門的知識を体系的に学ぶために」、「社会階層論」においては社会階層論の基礎的な視点を確認しながら、現代社会に存在する様々な不平等な側面について、社会学の観点から把握することを目指す。	(1)社会階層論の基礎的な概念を理解できるようになる。 (2)社会階層論の観点から社会現象を理解できるようになる。 (3)現代社会の様々な課題を自ら発見するための能力を身につけられるようになる。			●	◎
	SOC-336 I	スポーツ社会学演習 I	演習	☆2	3			○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる」能力を涵養する。スポーツは社会における位置・意味づけが初めて成立する。この授業では、スポーツとは何か?を社会学の立場から捉え、同時に、スポーツの社会的役割について検討することを通して、社会学の考え方を学んでいく。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現状と課題」「運動部活動の変容と課題」の各点からスポーツと社会に関わるテーマを設定し、社会調査の手法を用いながら学修していく。	(1)「社会調査法1」「社会調査法2」「社会調査法演習」「量的データの扱い方」「質的データの扱い方」「社会統計学」等で学んだ社会調査に関する事柄を再学修し、確実な知識として身に付ける。 (2)学修成果を発表するための基礎的技術・知識・素養を身に付ける。 (3)学内外での他者・組織・機関との関わりを通して、調整力および協働力を身に付ける。 (4)これまで学修してきた「地域社会学」「スポーツ社会学」および「スポーツ人類学」などの応用社会学の学習を実地で学び直すことによって、より確かな専門的知識として身に付ける。			◎	●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
										1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOC-337	スポーツ社会学演習Ⅱ	演習	☆2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる」能力を涵養する。スポーツは社会における位置・意味づけが初めて成立する。この授業では、スポーツとは何かを社会学の立場から捉えると同時に、スポーツの社会的役割について検討することを通して、社会学の考え方を学んでいく。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現況と課題」「運動部活動の変容と課題」の各点からスポーツと社会に関わるテーマを設定し、社会調査の手法を用いながら学修していく。	(1)「社会調査法1」「社会調査法2」「社会調査法演習」「量的データの扱い方」「質的データの扱い方」「社会統計学」等で学んだ社会調査に関する事柄を再学修し、確実な知識として身に付ける。 (2)学修成果を発表できるための基礎的技術・知識・素養を身に付ける。 (3)学内外での他者・組織・機関との関わりを通して、調整力および協働力を身に付ける。 (4)これまで学修してきた「地域社会学」「スポーツ社会学」および「スポーツ人類学」などの応用社会学の学習を実地で学び直すことによって、より確かな専門的知識として身に付ける。	◎			●
	SOC-338	スポーツ社会学演習Ⅲ	演習	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる」能力を涵養する。スポーツは社会における位置・意味づけが初めて成立する。この授業では、スポーツとは何かを社会学の立場から捉えると同時に、スポーツの社会的役割について検討することを通して、社会学の考え方を学んでいく。具体的には、「大学スポーツの振興施策の検討」「地域スポーツの現況と課題」「運動部活動の変容と課題」の各点からスポーツと社会に関わるテーマを設定し、社会調査の手法を用いながら学修していく。	(1)「社会調査法1」「社会調査法2」「社会調査法演習」「量的データの扱い方」「質的データの扱い方」「社会統計学」等で学んだ社会調査に関する事柄を再学修し、確実な知識として身に付ける。 (2)学修成果を発表できるための基礎的技術・知識・素養を身に付ける。 (3)学内外での他者・組織・機関との関わりを通して、調整力および協働力を身に付ける。 (4)これまで学修してきた「地域社会学」「スポーツ社会学」および「スポーツ人類学」などの応用社会学の学習を実地で学び直すことによって、より確かな専門的知識として身に付ける。	◎			●
	SOC-331	社会調査実習(フィールドワーク)	実習	☆6	3	○		カリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を企画し、実施し、調査報告書を作成する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1)調査を自分で企画し、実施することができるようになる。 (2)学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3)自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●
	SOC-331	社会調査実習Ⅰ	実習	☆2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を企画する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1)調査を自分で企画することができるようになる。 (2)学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3)自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●
	SOC-332	社会調査実習Ⅱ	実習	☆2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究をし、報告書を作成する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1)調査を自分で企画し、実施結果を報告することができるようになる。 (2)学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3)自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●
	SOC-333	社会調査実習Ⅲ	実習	2	3	○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「学科専門科目の基礎的理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために」、この授業は1、2年次に学習した社会調査法や社会調査法演習などの知識を総動員して行なわれる。受講生全員でひとつの大きなテーマの下に調査研究を実施する。この過程は、学問的な問いを自分で出し、社会学の方法を実際に用いながら、その出した問いへの答えを出すというものである。	(1)調査を自分で実施することができるようになる。 (2)学外の人と、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 (3)自分の得た知識を的確な表現を用いて、文章にまとめることができるようになる。	◎			●
	SOW-111	社会理論と社会システム	講義	2	2	○		人間は社会的動物と言われるように、他者および社会と関わることなく生きていくことはできない。そのため、人間と関わるヒューマンサービスを提供するためには、「社会」を理解し、個人がいかに社会的な存在であるかを理解することは極めて重要である。この講義では社会的思考力を身につけることによって、論理的かつ柔軟に社会をみる視点を形成するとともに、社会福祉士をはじめとした福祉専門職・ヒューマンサービス職に就くための基礎的教養を獲得することを目的とした。	この講義では、「社会福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容並びに介護福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容について」(厚生省社会局長通知)に準拠し、 (1)福祉専門職に必須である社会学の基本的な考え方、知識を学ぶ。 (2)現代社会の持つ諸側面について、その特徴と問題とを合わせて理解し、現代社会の多様性、多様な価値観への理解を深めることを目標とした。を「変化-社会変動」という視点から捉えることによって、現代社会への理解を深めることを目的とした。			●	◎
	SOW-231	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義	2	2	○		「相談援助の理論と方法Ⅰ」の履修では、これまでの講義で得た知識をもとに、相談援助実践の過程を体系的かつ実践的に学ぶ。具体的には、相談援助のインテーク、アセスメント、プランニングとそれに基づく実施、評価、終結といった展開を学ぶ	(1)対人援助の開始から終結までのプロセスを理解することができる。 (2)対人援助実践におけるアセスメントの重要性を理解することができる。 (3)対人援助にかかわる記録の重要性と記録の仕方を理解することができる。 (4)対人援助にかかわる実践の蓄積の意義を理解することができる。			●	◎
	SOW-232	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義	2	2	○		「相談援助の理論と方法Ⅱ」の履修によって、対人援助の主要な理論を取り上げながら、援助者と非援助者(利用者)のそれぞれの状況と、両者を取り巻く環境の捉え方を学ぶ。そして、援助者が持つべき専門性と、その専門性を発揮して問題解決を図る援助実践のための基礎的知識を学ぶ。	(1)対人援助の専門職である社会福祉士に求められる相談援助の基本的な理解ができる。 (2)「社会福祉士国家資格試験受験資格」を得るに必要な基本的知識を得ることができる。			●	◎
	SOW-314	社会福祉運営管理論	講義	2	3		福祉サービスの組織と経営	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、社会福祉サービスの主な提供組織の機能と役割、組織管理の理論と実際について総合的に学ぶ。授業を通して、社会福祉専門職として必要とされる経営管理の知識とスキルを身につける。	(1)福祉サービスの提供組織や団体にかかる制度や内容を理解できるようにする。 (2)福祉サービスの組織と人材育成について理解できるようにする。 (3)福祉サービスの財務会計の基本と情報管理について理解できるようにする。			●	◎
	SOW-126	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2	2	○		この科目は社会福祉士指定科目であり、公的扶助の専門的な知識、技術、価値観を定着させることが目指される。現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、貧困・低所得にある人々への理解と、その支援のための生活保護制度や生活困窮者自立支援諸制度の理解を深め、低所得者への個別支援の方法を学ぶ。	(1)貧困の概念や原因、貧困・低所得層の人々が直面している課題を理解する。そして、生活保護など公的扶助制度の仕組みや機能を理解する。さらに制度や社会資源を活用し、他職種連携・ネットワークにより所得者の課題解決を支援する技術を理解する。			●	◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに主体的に取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOW-127	保健医療サービス	講義	2	1		地域住民の生活問題や生活課題の解決に向けて、地域を基盤に保健医療サービスの向上を図ることはわが国にとって最も重要な政策課題の一つである。講義を通して、今日の社会保障制度や保健医療福祉サービスの変遷や概要について学び、社会福祉専門職の役割と実際についての理解を深める。カリキュラム・ポリシーとして、本科目で「現代社会や福祉に関する専門的知識および応用的知識を体系的に学ぶ」ことを通して、「学科専門科目の基礎的知識の理解」を図ることとする。	(1)今日の社会保障制度や保健医療サービスの変遷や概要について説明できる。 (2)保健医療サービスにおける専門職の機能・役割を説明できる。 (3)保健医療サービス関係者や地域の社会資源との連携を説明できる。 (4)保健医療サービスにおける社会福祉専門職の専門性について考えを述べられる。	●	◎			
	SOW-224	権利擁護と成年後見制度	講義	2	2		この講義のテーマとなる成年後見制度は、判断能力の点において援助を必要としている人たちのための制度である。広く国家との関連も視野に入れながら人権擁護の観点からこの問題を理解する必要がある。最初に法学の基本的知識(憲法、行政法、民法)を理解した上で、具体的な制度や活動の実態などを学んでいく。知識の修得という側面だけでなく、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーを反映し、実証的な研究方法の修得や社会との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指した授業を心掛ける。	(1)社会福祉士国家試験の試験範囲である「権利擁護と成年後見制度」について体系的に理解できる。 (2)制度理解に必要な法学の基本知識を身に付けることができる。 (3)問題演習を通じて国家試験合格に向けた能力を身につけることができる。 (4)人間関係学部のディプロマ・ポリシーである人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析によつて的確な判断を下すことができる。	●		◎		
	SOC-361	少年非行論	講義	2	3		この授業では、最初に少年法の理念や非行少年の類型について説明した後、少年非行の現状について概観する。その上で非行発見から少年に対する処分についての手続を一般の刑事手続との相違も説明しながら概観する。少年法は非行少年に対応するための基本となる法律であるが、児童福祉法や少年院法等も少年法に関連する法律であるので、必要に応じて取り上げることとする。この科目は、総合政策学部開講科目「少年法」との合同開講科目である。カリキュラム・ポリシー上、この科目は社会安全分野の科目に位置づけられる。	(1)少年法第1条に掲げる少年の健全育成の理念を念頭に置いて、成人に対する司法手続と少年に対する司法手続との違いを含めた少年法の概要について理解し、合理的な根拠を示すことなく「少年法は甘い法律である」などの主張をすることなく、何故に成人と少年では適用される法律が異なるのかについて把握した上で、批判すべきは批判することなど、多面的総合的に判断することが出来るようになること。		◎	●		
	SOC-334	社会統計学演習 I	演習	☆2	3	○	カリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。社会統計学演習 I では、必要な資料を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことを目指す。演習では、社会統計学の基礎知識を踏まえ、Web上で公開されている様々な統計資料を活用する知識とそれらのデータを卒業論文に活用するためのPC技能を習得する。さらに、統計データが収集される社会(茨城県)の現場を観察する機会を設け、データと現実社会の両方の情報を捉えることの重要性を理解する。	(1)必要な統計データを解釈できる。 (2)調査の結果を資料やデータを用いて整理することができる。 (3)調査課題に対する結果・考察をまとめることができる。 (4)卒業論文につながる資料を作成できる。 (5)学科の専門科目で得た知識をもとに、卒業論文につながるテーマの間を明確にすることができる。 (6)社会調査法の基礎知識をもとに、興味をもった課題を明らかにする方法を考案することができる。 (7)自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。		◎		●	
	SOC-335	社会統計学演習 II	演習	☆2	3	○	カリキュラム・ポリシーに基づき、現代社会を理解するための方法論として、「情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる」能力を修得するため、また、実証的な教育を通して、「現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる」能力を涵養する。社会統計学演習 II では、社会統計学演習 I で習得した統計データ活用知識・技能、フィールドワークの経験をもとに、必要な資料を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解く力をさらに磨くことを目指す。統計学演習 I で作成した報告書をもとに、演習テーマに関連する情報をさらに追加し、最終報告書としてまとめ、卒業論文制作へと繋げていくことが授業の目標となる。また、グループ討論やグループワークを重視した指導方法を通して、「社会的存在としての人間」、「他者と共に生きていく人間」を実感的に認識でき、その実践的能力を涵養する学修機会を用意する。	(1)必要な統計データを解釈できる。 (2)調査の結果を資料やデータを用いて整理することができる。 (3)調査課題に対する結果・考察をまとめることができる。 (4)執筆計画をまとめることができる。 (5)学科の専門科目で得た知識をもとに、演習テーマの間を明確にすることができる。 (6)社会調査法の基礎知識をもとに、設定した課題を明らかにする方法を考案することができる。 (7)作成した報告書を洗練させるための作業ができる。 (8)自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。		◎		●	
	SOC-351	社会安全論演習	演習	☆6	3	○	この授業は、地域社会における犯罪予防、食の安全など、社会安全に関わる諸問題について、受講生自身が主体的に考察し、問題解決のための方策について模索することを目的とした演習である。春及び秋セメスターは、受講生全体を2クラスに分割した上で教員全員による各セメスター7回ずつのオムニバス方式で授業を展開し(クラス編成等は掲示板を確認。なお春セメ第1回及び秋セメ第15回は受講者全員を集めて授業を行う)、夏季セッションは、3日間の集中で実施する(春セメスター期間に詳細について別途説明・掲示)。この授業は、カリキュラム・ポリシーという社会の安全・安心に関わる分野に位置づけられる。	(1)現代社会における社会安全に関する諸問題について認識できるようになること。 (2)当該問題解決のための方策について自らが模索できるだけの知識・技法等を身につけること。 (3)現代社会の課題の1つである社会安全に係る問題について、多角的に見出せるようになること当該問題解決のための方策について考えることができるようになること。		◎		●	
	SOC-362	社会安全論演習 I	演習	☆2	3	○	この授業は、地域社会における犯罪予防、食の安全など、社会安全に関わる諸問題について、受講生自身が主体的に考察し、問題解決のための方策について模索することを目的とした演習である。春及び秋セメスターは、受講生全体を2クラスに分割した上で教員全員による各セメスター7回ずつのオムニバス方式で授業を展開する。この授業は、カリキュラム・ポリシーという社会の安全・安心に関わる分野に位置づけられる。	(1)現代社会における社会安全に関する諸問題について認識できるようになること。 (2)当該問題解決のための方策について自らが模索できるだけの知識・技法等を身につけること。 (3)現代社会の課題の1つである社会安全に係る問題について、多角的に見出せるようになること当該問題解決のための方策について考えることができるようになること。		◎		●	
	SOC-363	社会安全論演習 II	演習	☆2	3	○	この授業は、地域社会における犯罪予防、食の安全など、社会安全に関わる諸問題について、受講生自身が主体的に考察し、問題解決のための方策について模索することを目的とした演習である。この授業は、カリキュラム・ポリシーという社会の安全・安心に関わる分野に位置づけられる。	(1)現代社会における社会安全に関する諸問題について認識できるようになること。 (2)当該問題解決のための方策について自らが模索できるだけの知識・技法等を身につけること。 (3)現代社会の課題の1つである社会安全に係る問題について、多角的に見出せるようになること当該問題解決のための方策について考えることができるようになること。		◎		●	
	SOC-248	ジェンダーの社会学	講義	2	3-4	○	学部と学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、ジェンダー学の視点を学び、私たちが日常生活の中で出会う「男らしさ」や「女らしさ」とは何かについて考えます。具体的には、家事・育児などの無償労働、学校や職場での性別による役割分担、教育の男女格差、セクシャルハラスメントなどの問題を深く理解することを目指します。また女性の政治参加や男女平等社会を実現しようとする運動について学びます。	(1)多様かつ調和のとれたジェンダーの視点をもって性別にまつわる「当たり前」や日常生活でよく出会う「男らしさ/女らしさ」を批判的に考えることができる。 (2)幅広い視点からのジェンダーの考察を通して、ニュースなどで扱われる社会問題を理解できる。 (3)現代社会に不可欠な素養として、自分の周りのジェンダーの問題について気づき、考えることができる。	◎		●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	夏	秋	冬	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組み、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考案することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
	SOC-251	地域安全論	講義	2	2・3・4						この授業は、犯罪予防の観点から社会安全のための政策について考えるものである。具体的には、社会安全政策の中でも地域社会レベルで犯罪予防活動を実践する上での理論的根拠として有用と思われる犯罪機会論について説明した上で、犯罪予防活動の実践についてみていきたいと思います。また犯罪予防活動に関するビデオ鑑賞も行いたいと思う。なおこの授業は、カリキュラム・ポリシー上、社会の安心・安全に係る分野に位置づけられる。またこの授業は、総合政策学部開講科目「社会安全政策」との合同開講となる。	(1)犯罪機会論について理解し、従来の犯罪予防論との違いについて説明できるようになること。 (2)我が国における地域社会レベルにおける犯罪予防の実践の概要について把握できるようになること。 (3)授業全体を通じて自分たちでも実践可能な犯罪予防策としてどのようなものがあるのかを考えることができるようになること。	●			◎	
	SOW-221	福祉行政と福祉計画	講義	2	2・3						福祉行政における財政状況や社会福祉制度・施策の実施に携わる福祉関係機関の役割、地域共生社会の構築に関する社会福祉計画法(ソーシャル・プランニング)による計画の意義について学び、理解する。	現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、わが国における社会福祉制度・施策の変遷とそれを支える行政の実施体制について学ぶとともに、地域共生社会の構築の一翼を担う福祉計画に関して、社会福祉援助技術である社会福祉計画法(ソーシャル・プランニング)による計画策定の意義や目的、方法について学び、理解する。	(1)福祉行政の歴史的展開、福祉行政に関する国・自治体の役割と関係、福祉行政の組織、団体及び専門職の役割について理解できる。 (2)国及び地方の福祉行政の実態について理解できる。 (3)福祉計画の意義、目的、主体、種類、福祉計画の策定過程、評価方法等について理解できる。	●		◎	
	SOW-222	就労支援サービス	講義	1	2・3						① 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度を説明する。 ② 就労支援にかかる組織、団体、専門職について説明する。 ③ 就労支援の各分野の特徴や連携について説明する。 ④ 「人が働くことの意味」を考える契機とする。 なお、この授業は、現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである、「学科専門科目の基礎的知識の理解」を図ることを目的とするものである。	(1)雇用・就労の動向と労働政策の基本について理解できる。 (2)就労支援にかかる基本的用語や概念について理解できる。 (3)就労支援にかかる専門機関や関係職種を説明できる。 (4)就労支援について、課題の背景と将来的な課題について、自分の考え方を表現できる。	●		◎		
	SOW-223	更生保護制度	講義	1	2・3						本科目は、社会福祉士国家試験科目「更生保護制度」に関する科目です。「更生保護」は、非行や犯罪をした人の再犯防止と立ち直りの指導・支援に関わる分野であり、近年、社会福祉、医療、労働等の分野との協働による指導・支援も活発化しています。本科目では、カリキュラム・ポリシーに基づき、社会の安全・安心と個人の地域社会への再統合や回復支援という社会的課題を支える実務の基礎知識を初学にも分かりやすい形で学びます。	(1)刑事司法制度における福祉的措置の機能や役割が理解できる。 (2)更生保護制度やそれを支える機関や人々の概要等の全体像を把握し、社会福祉士試験に向けた学習課題を理解できる。 (3)関連領域との連携・協働による施策動向等を理解し、再犯防止や共生社会推進に向けた実務の意義や今後の課題を考察できる。	●		◎		
	SOW-243	相談援助演習Ⅱ	演習	4	3						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーである「社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的にとらえる」ため、事例等の教材を活用して、相談援助場面における社会福祉援助技術の活用方法を体験的に学ぶ。現時点で習得している社会福祉援助技術を試行(実践)し、スーパービジョンを活用することによって、専門性の習得度について自己覚知をすることや、実習の振り返り、地域におけるソーシャルワークの展開について実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1)相談援助業務を具体的に理解し、利用者や家族を個別化して理解し、社会福祉専門職の価値に則って、社会資源を活用し、多職種連携をして、社会福祉援助技術(ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク)を試行することができる。 (2)実習での経験と、理論・制度等の知識と関連付けることができる。 (3)ソーシャルワークの各アプローチについて具体的に説明することができる。 (4)地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。	◎		●		
	SOW-344	相談援助演習Ⅲ	演習	2	4						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、相談援助に関わる他の科目との関連性、実習での経験を視野に入れながら、社会福祉士に求められる相談援助のための知識と技術について、段階的に学ぶ。この授業は最終学年における演習科目となるため、地域におけるソーシャルワークの展開、各領域の特性を考慮したソーシャルワークについて、実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1)地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。 (2)各領域におけるソーシャルワークについて、活用可能な制度・社会資源及び利用者の特性に応じた支援プロセスについて説明できる。	◎		●		
	SOW-342	社会福祉援助技術演習Ⅳ	演習	2	3						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、相談援助に関わる他の科目との関連性、実習での経験を視野に入れながら、社会福祉士に求められる相談援助のための知識と技術について、段階的に学ぶ。この授業では実習での経験についての振り返りとともに、ソーシャルワークにおける各アプローチ、地域におけるソーシャルワークの展開について、実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1)現代社会学科のディプロマ・ポリシーである「同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる」ようになるため、以下を到達目標とする。 (2)実習での経験と、理論・制度等の知識と関連付けることができる。 (3)ソーシャルワークの各アプローチについて具体的に説明することができる。 (4)地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。	◎		●		
	SOW-343	社会福祉援助技術演習Ⅴ	演習	2	4						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、相談援助に関わる他の科目との関連性、実習での経験を視野に入れながら、社会福祉士に求められる相談援助のための知識と技術について、段階的に学ぶ。この授業は最終学年における演習科目となるため、地域におけるソーシャルワークの展開、各領域の特性を考慮したソーシャルワークについて、実践的な演習方法(グループワーク、ロールプレイ)で学ぶ。	(1)地域におけるソーシャルワークの展開について説明できる。 (2)各領域におけるソーシャルワークについて、活用可能な制度・社会資源及び利用者の特性に応じた支援プロセスについて説明できる。	◎		●		
	SOW-321	社会福祉実習指導Ⅰ	演習	4	3						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、社会福祉実習を履修するに先立って行う事前学習として、実習に必要な知識・技術等を段階的に学ぶ。講義、視聴覚機器の使用、個別指導、グループワーク等の方法を組み合わせた指導方法をとる。必要に応じて、外部講師の招聘等も適宜行う。なお、1週2コマで展開する授業となる。	(1)社会福祉実習に行くための基本的な知識・価値・倫理を身につけている。 (2)職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習を組み込んだ実習計画書の作成などを通じて、主体的な学びの姿勢・態度を身につけている。 (3)社会福祉施設等で実習することの意味を言語化できる。	◎		●		
	SOW-341	相談援助実習指導	実習	3	3						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、社会福祉実習を履修するに先立って行う事前学習として、実習に必要な知識・技術等を段階的に学ぶ。講義、視聴覚機器の使用、個別指導、グループワーク等の方法を組み合わせた指導方法をとる。必要に応じて、外部講師の招聘等も適宜行う。なお、1週2コマで展開する授業となる。	(1)社会福祉実習に行くための基本的な知識・価値・倫理を身につけている。 (2)職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習を組み込んだ実習計画書の作成などを通じて、主体的な学びの姿勢・態度を身につけている。 (3)社会福祉施設等で実習することの意味を言語化できる。	◎		●		
	SOW-322	社会福祉実習指導Ⅱ	演習	4	3						現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養するため、社会福祉実習の体験を総括する事後学習として、段階的に学ぶ。この授業では講義、視聴覚機器の使用のほか、個別指導、個人の体験を他者に伝えたり、伝えられたりする関係のなかでのグループワーク等の方法を組み合わせた指導方法をとる。なお、1週2コマで展開する授業となる。	(1)実習の振り返り体験を言語化できる。 (2)社会福祉専門職としての自己について言語化できる。 (3)実習前の学び、実習からの学び、実習振り返りによる学びの3つの局面を有機的・包括的に結びつけることができる。	◎		●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。(知識・理解)	2.現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)	3.現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身につけている。(態度)	4.現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
											◎	○	●	
	SOW-323	社会福祉実習	実習	4	3		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養し、社会福祉士の国家試験受験資格を得るために、法令で定められた社会福祉の現場で180時間以上の社会福祉実習(相談援助実習)を行う。そして、実習指導者や教員からの指導を受けることにより、学びを深化させる。	(1) 大学での学び(講義、演習)を社会福祉の現場で確認し、「理論」と「実践」とを結びつけることができる。 (2) ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の業務を理解することができる。 (3) 社会福祉専門職としての自己覚知を深めることができる。	◎	○	●	
	SOW-342	相談援助実習	演習	4	3		○		現代社会学科のカリキュラム・ポリシーにある「実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力」を涵養し、社会福祉士の国家試験受験資格を得るために、法令で定められた社会福祉の現場で180時間以上の社会福祉実習(相談援助実習)を行う。そして、実習指導者や教員からの指導を受けることにより、学びを深化させる。	(1) 大学での学び(講義、演習)を社会福祉の現場で確認し、「理論」と「実践」とを結びつけることができる。 (2) ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の業務を理解することができる。 (3) 社会福祉専門職としての自己覚知を深めることができる。	◎	○	●	